

(仮称)守谷市総合公園新設事業に関するサウンディング型市場調査
実施結果

1 対話期間

令和6年11月5日～令和6年11月12日

2 実施方法

対面形式(会場:守谷市役所内)

3 参加事業者数

13社

4 主な意見

(1)事業のコンセプト・アイデア、施設のイメージ

- ヤクルト2 軍施設と常総運動公園をつなぐもの
- 茨城県内に最初に入る地域としての「街の顔」
- 市民の健康増進、市民が楽しめるにぎわいの場
- 公園周辺の複数事業との一体性
- ヤクルト2 軍施設と常総運動公園との差別化(飲食、アーバンスポーツなど)
- フットサルコート、インクルーシブ遊具、アスレチック遊具、有料駐車場などの設置

(2)事業方式、事業期間、事業範囲

- 事業方式
公 園 : 指定管理者、PFI、Park-PFI など
モビリティ : コンセッション方式など
- 事業期間 : 5年間(指定管理者)、10年以上(PFI)、20年間(Park-PFI)など
- 事業範囲 : 設計、建設、維持管理、運営の一括

(3)事業化の課題・条件

- 常総運動公園が隣接すること(施設の差別化、リスク分担など)
- 公園周辺の交通状況、公園までのアクセス
- 物価上昇、人手不足
- 競争性の確保(参加資格要件の設定など)

(4)公募スケジュール

- 提案書作成に6か月程度は必要
- 意見交換・質問回答は、対面方式で複数回の実施を希望
- 公募開始前から市との意見交換を希望

(5)防災拠点としての機能

- 備蓄倉庫、マンホールトイレ、かまどベンチなどの設置
- 芝生広場や駐車場をヘリポートや消防車両等の駐車スペースなどに利用
- モビリティを非常用電源として利用

(6)想定ルートへの新モビリティサービスの導入可能性

- 想定ルート1 は、来園者確保や賑わい創出の効果あり
- 想定ルート2 は、守谷SA スマートIC 周辺土地区画整理事業との連携による利用
- 想定ルート3 は、新モビリティサービスのテストの場として利用
- 想定するモビリティ：カーシェア、シェアサイクル、バス(周遊、自動運転)など
- 競争性の確保の観点から、公園と新モビリティサービスは分離発注
- 来園者確保や賑わい創出の観点から、公園と新モビリティサービスは一体発注

【参考】市が想定する新モビリティサービスのルート

想定ルート1：守谷市総合公園～守谷駅

想定ルート2：守谷市総合公園～守谷サービスエリア

想定ルート3：守谷市総合公園内の移動

(7)その他

- カフェ出店には厳しい条件が付くことあり
- 屋内遊戯施設は天候に左右されないため、収支計画がつくりやすい
- 公園だけでの集客は難しいため、交通事業者と連携して公園周辺も含め盛り上げた事例あり
- 各球団が2 軍球場のボールパーク化を進めており、力の入れ方に変化あり

5 今後の対応

今回のサウンディング型市場調査でいただいた意見を参考に、事業内容等を検討していく。
また、希望する事業者とは継続的に意見交換を行い、事業実施に向けて進めていく。_